

# 公益社団法人 日本給食サービス協会会長賞

## 『祖母の味』

鹿児島県鹿児島市立星峯東小学校 六年 鮫島 礼名

「礼ちゃん、味見してみるね。」

私は、祖母が料理をするとき、よくとなりで見っていた。料理を覚えたいというより、味見をするのが楽しみだったからだ。祖母は、料理中に毎回「おいしくなあれ。おいしくなあれ。」

と、ニコニコしながら言っていた。料理にま法をかけていたのだ。そんな言葉でおいしくなるのか、不思議に思ったことは何度もある。しかし、祖母の料理はいつも、何でもおいしい。特においしいのは、けい飯、コロッケ、ドリア。その中でもけい飯は、具材が多いため、祖母のま法がたくさんかかっている。とりささみ、きん糸卵、つぼづけ、しいたけ、そして一番の自まはスープだ。とう明で、少し光っていて、とり肉のだしがきいたスープである。うす味なので、お味そ汁よりも飲みやすく、おかわりを何回もした。見た目はなやかで、白いご飯がパツと明るく変身する祖母のけい飯は、とてもおいしかった。でも、祖母は三月二十日に亡くなった。

六月十六日の給食はけい飯。祖母が亡くなってから、初めて食べる給食のけい飯。どうせいつもの給食の味だろうと思って、ひと口スープを飲んだ。何だか思っていた味とちがう。なつかしい味がする。もう食べられないかと思っていた祖母の味がもどってきた。これは、祖母のスープと似ている。自分でも信じられなかった。信じられずに味を確かめながら何度も飲んだ。やっぱり祖母が作ったスープの味だ。具材は食べやすいように混ぜられているので見た目はちがうが、スープのおかげで、とてもおいしく食べることができた。

「けい飯もうすぐなくなりそうだよ。」

と、元気な声が聞こえた。私の学級は、毎日残食があったが、けい飯はみんなが好きなの立ってだった。何人かおかわりに行き、私はスープをおかわりしたかったが、すでに空だったの、具材をおかわりした。

「お腹いっぱいでも、おいしいね。」

「後少し、後少し、後少しで完食だ。」

と、みんなにぎやかに食べていた。そして、みんなが、あとひと口ずつ食べたおかげで、ついに完食した。飛びはねるほどうれしかった。今日のけい飯は特別だ。

数日後、全校朝会で、給食委員会が、給食の栄養や調理の工夫などを発表してくれた。それを聞いて、もしかしたら調理員さんも野菜を育てる方も配達する方も、私たちが楽しく残さず、食べてくれるように、ま法をかけているのかもしれないと思った。おかげで、私の学級は完食できた。初めて完食したけい飯は、祖母の味を思い出す、私にとって特別な給食になった。

ばあば。これからも残さず食べる私を見守っていてね。